From Kobe　2012.8 月

ひまわりの夏　2012

暑い暑い夏到来　お互いに体調に留意して　この暑い夏を乗り切りましょう
閉塞感が漂う 2012 年の夏ですが、ひまわりの顔を見ていると　気持ちも明るくなります。

毎年ひまわりに出会いに行く西播磨佐用町林崎のひまわり畑
今年も千種川が流れ下る河岸段丘一面を多い尽くすひまわりに出会えました。
「今年も来たよ　がんばろう」と思わず　声をかける。
近づくとその一つ一つ個性がある顔が一斉にこっちを向いて「元気やったか・・・」と声をかけてくれる。
これが楽しみ。
今年も　これで　夏が来た。　孫たちも　元気にすくすく　　うれしい 2012 年　ひまわりの夏です

2012.　盛夏　　神戸にて　Mutsu Nakanishi

西播磨佐用町 林崎のひまわり畑で　　2012. 7. 18.

西播磨　佐用町林崎のひまわり畑　　2012.7.19

場所は　西播磨佐用町林崎。北から狭い山間を流れ下ってきた千種川の河岸段丘に点在する下野・漆野・徳久・林崎の集落で時期を少しずらしながら　ひまわりが育てられ､7月半ばから8月はじめまで谷筋一面ひまわりの素晴らしい光景が見られる。林崎はそのひとつ。

この千種川が流れるこの一帯は古代　西播磨の製鉄地帯（三河製鉄遺跡群）で古代のたたら跡が幾つも点在し、早春のカタクリに始まり　春は桜・菜の花　夏はひまわり　秋のコスモスが川筋を彩る山里の素晴らしい景色に毎年季節季節に訪れるところである。　久し振りの千種川の流れと山里の景色になんとなく気持ちもやわらぐ。

久し振りの西播磨佐用へ。　今回はひまわり畑とともに地図で見つけた弥生時代からあるという東徳久「天一神社」をみつけること。　古代のたたら製鉄地帯に存在し、名前からすると製鉄神「天目一」との関連がありそうと。

古代たたらの郷　佐用
千種川流域に咲くひまわり畑と製鉄神「天目一筒神」を祭る「天一神社」を訪ねる

神戸からは　田園地帯を眺めながら　快適に原チャリで、国道 171 号線　三木・小野を経て播磨平野の北縁の丘陵地に入り、青野ヶ原の丘陵地を越えて福崎へ。後は　中国道と併走しながら　山崎断層の中を山崎を経て　佐用へ　3 時間弱の快適な原付ハイク。中国山地の中に分け入り、うっそうとした森林の中　見覚えのある切窓峠をこえると佐用に入り、下三河の集落で北の山間から流れ下ってきた千種川に出合う。　この千種川に沿って下れば、ひまわりに出会える。
下三河から川沿いに出て　少し下って　正面に中国自動車道の赤い高架橋が見えてくると下野の集落。
高架橋のあたりにも古いたたら跡がある。　また　いつもなら　ひまわり畑が川岸に広がっているのですが、
今年は種まき時期が一番最後でまだひまわり畑はつぼみのまま。

山崎/佐用の境　切窓峠　　下三河から千種川の川沿いを南へ下ると下野の集落

佐用町下野のひまわり畑はまだつぼみ

この下野には　かつて　たたら製鉄で反映した様子を示すたたら唄が残っている。

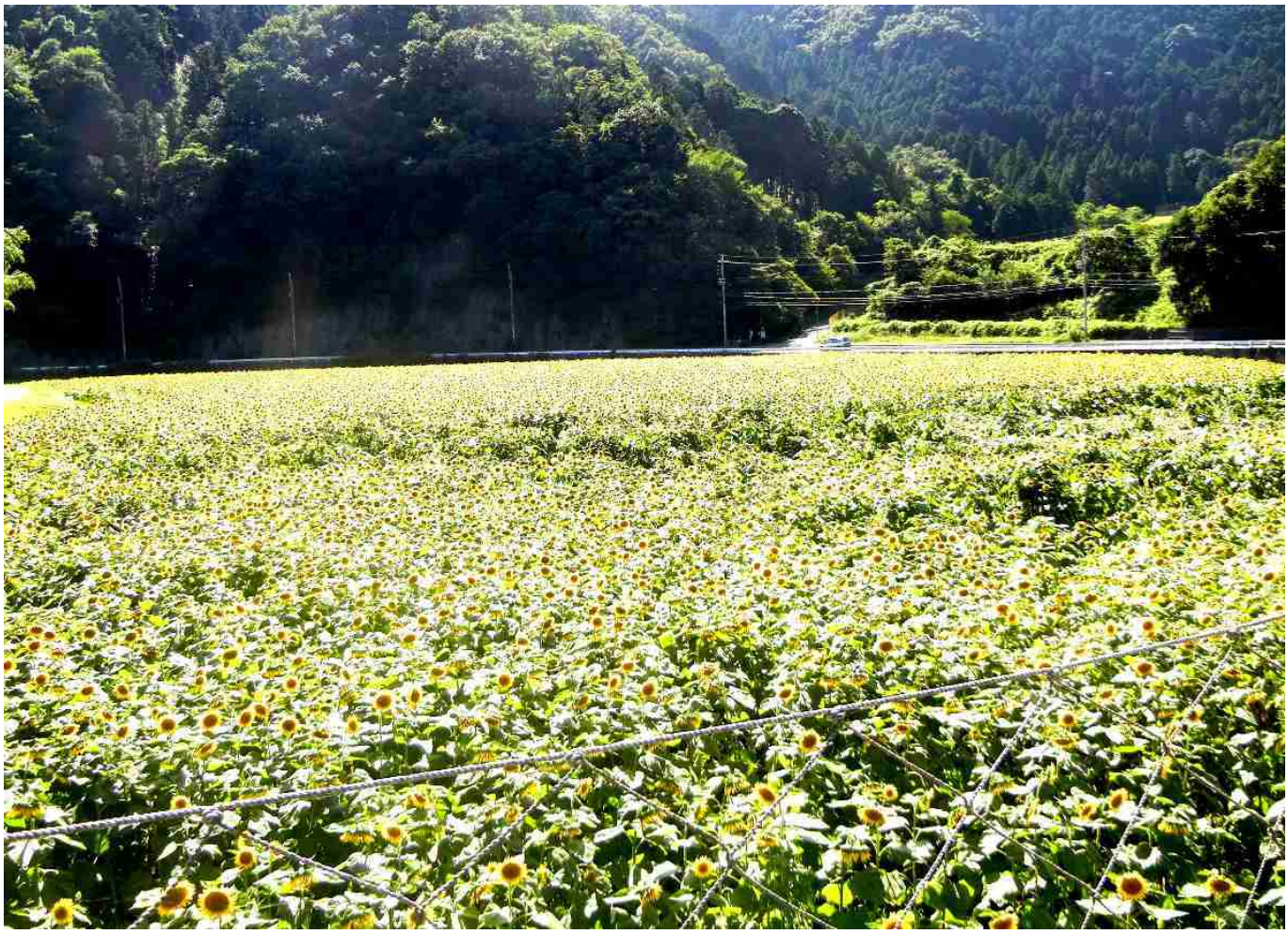
西播磨の古代たたらは　当初　この千種川に合流する西の佐用町市街地を流れ下る佐用川流域が中心であったが、採取される砂鉄が高温で粘ばいスラグを作る高チタン系であったため、次第に低チタン系砂鉄が採取出来る千種川本流の千種・下三河にその中心が移ったといい、下野もそんな千種川本流のたたら場で随分繁栄したようだ。

　今は　もうここが古代製鉄の痕跡を示すものはほとんど残っておらず、このたたら唄がその痕跡を示している。

下野がまだひまわりがさいておらず、ちょっと心配しながら中国道の赤い高架橋をくぐって漆畑の集落にはいると、大きくカーブする千種川の川岸一面にひまわりが咲いているのが見みてきた。今年も　西播磨　佐用のひまわりが健在である。

時期的には満開なのですが、、この漆畑のひまわり畑と見る位置が平面なのと花の盛りが過ぎて　まっ黄には見えないので、漆畑の集落は川の反対側　道路際の山の裏側に隠れているのですが、この本村へ入る坂道からひまわり畑全体を鳥瞰することにする。

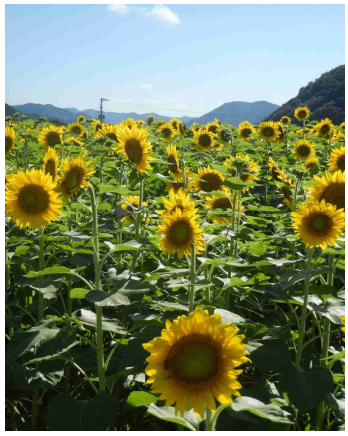
千種川の川岸　漆畑のひまわり畑　　2012. 7. 19.

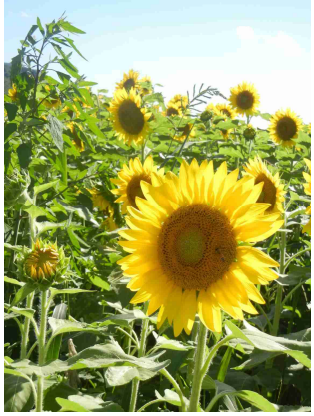


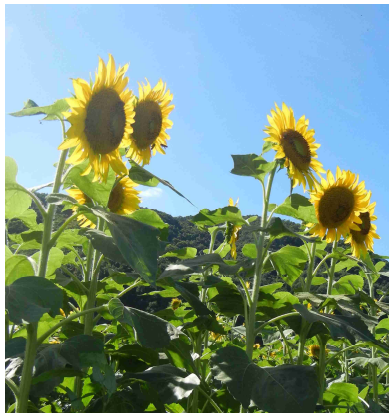
漆畑本村の丘の上から　漆野のひまわり畑　　2012. 7. 18.

漆野からしばらく山間を抜けてゆくと広い田園地帯　一面緑の向こうに黄色の部分が見え、幾本もの旗やテントがその際に建っている。　橋を渡ってひまわり畑の側に移り、ひまわり畑を眺めながら駐車場に原付を止めてひまわりに出会いに行く。

千種川が流れ下る北側から　林崎のひまわり畑を眺める　　2012. 7. 18.

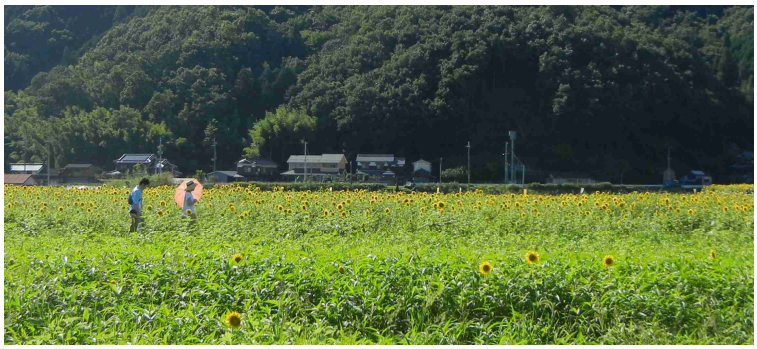




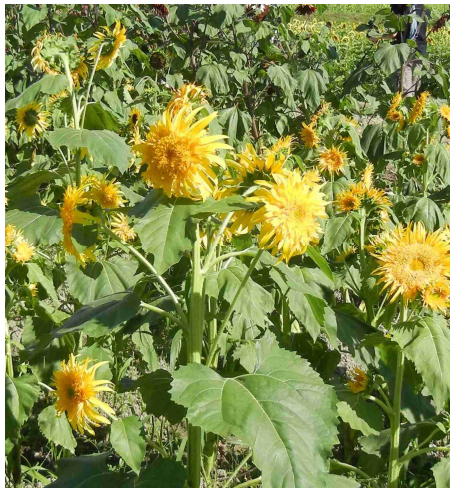


佐用町　林原ひまわり畑でみたひまわりの顔　　2012. 7. 18. 【1】

佐用町　林原ひまわり畑でみたひまわりの顔　　2012. 7. 18. 【2】



南側から　佐用町　林原ひまわり畑　全景　　2012. 7. 18.



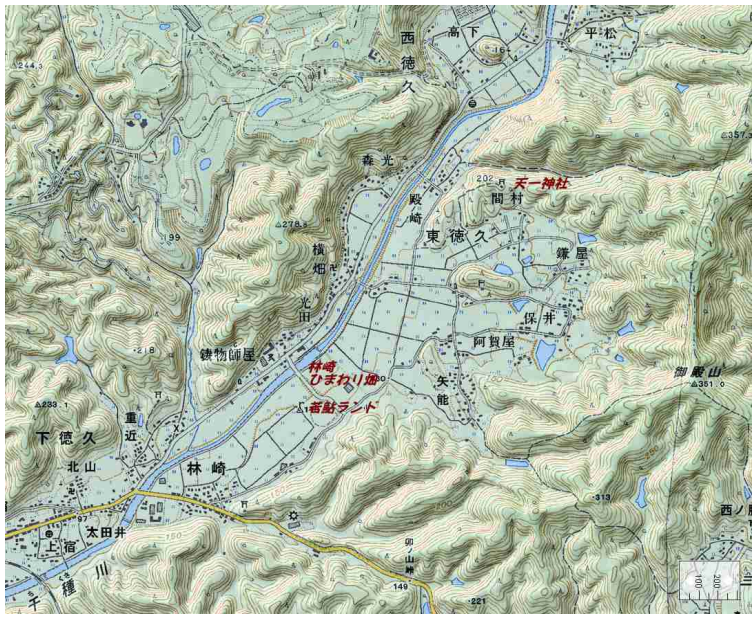
こんなひまわりにも出会えました

《　製鉄神「天目一筒神」を祭る「天一神社」を訪ねる　》

東徳久　千種川の南岸丘陵地にある天一神社

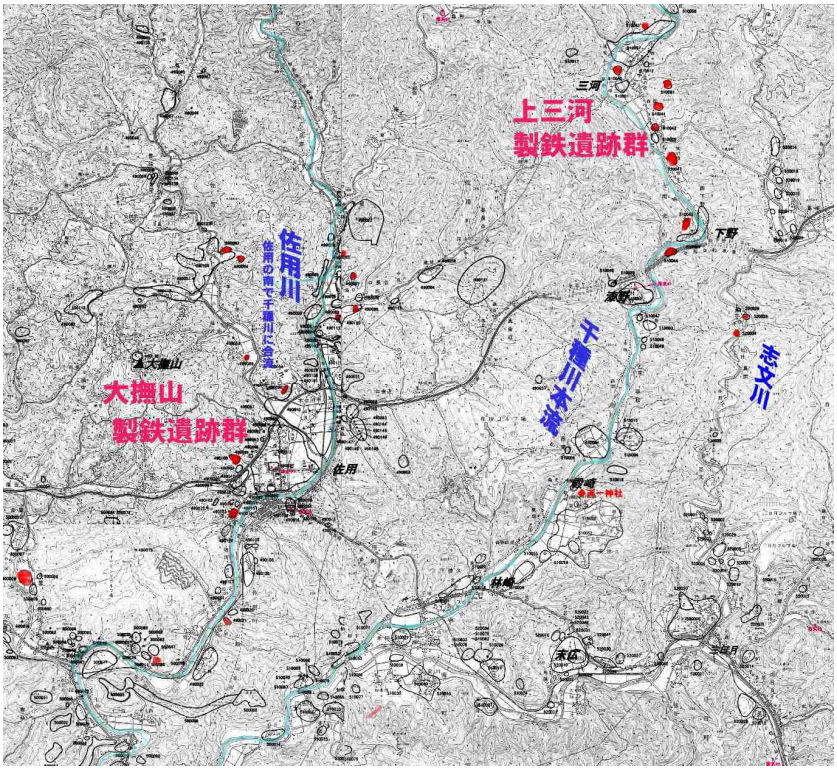
【祭神】天之御中主大神　(配祀)天目一箇神（鍛冶の神）

千種川が山間を流れ下り、数多くの古代製鉄遺跡がある古代製鉄の地　東徳久の丘陵地に千種川を見晴らして建つ「天一神社」
この神社は今より約2千年前(弥生時代)に創立された日本でも最古の神社で、宝剣(銅剣)が神體であることは、天智記に「安置御宅」と記され、延喜式神名帳をはじめ多くの古書に登記され有名です。
尚、奈良東大寺戒壇神名帳に「天一天白中頭天王」と天一神社のことが記されています。
社名が示すとおり、本来の祭神は鍛冶関係の天目一箇神と推察される。



インターネットを調べていて、千種川沿いに弥生時代創建と伝えられる「天一神社」のページを見つけました。ひまわり畑のある林崎と漆野の中間東徳久。
位置がはっきりせず、地図で確認すると春カタクリをよく見に行く殿崎の山のようだと知れる。
古代の製鉄地帯の真っ只中である。
下三河製鉄遺跡群が下野で途切れ、下流側に何かあるのではと思っていた時に見つけた「天一神社」である。
この神社の由来はどうもはっきりしないが、御神体の宝剣（銅剣）が天智記に「安置御宅」と記され、延喜式神名帳をはじめ多くの古書に登記されているなど相当古い神社で、また銅剣（県指定重要文化財）は明治二十年頃西徳久の「ゴロウ」と呼ばれる所から発掘され、弥生時代に大陸から渡って来たもので圃場整備の時に数々の土器が発見されたという。(西徳久ごろう遺跡??)。また　近くの縄文・弥生時代から奈良・平安と受け継がれてきた集落　東徳久遺跡からは. 分銅形土製品が出土しており、この千種川沿いの周辺地が早くから開けた土地であった。　千種川上流の「千種」の「種」そして「徳久」の「トクサ」いずれも製鉄関連地名といわれ、こじ付けになってしまうが、古代の製鉄地帯に古くから存在する神社　やっぱりたたら衆の神であったのでは・・・・・と。
なお　この徳久地区から少し南の旧三日月町には『播磨風土記』にこの天一神社の宝剣にも関連すると取れる下記のような話も伝わっている。

昔むかし天智天皇の時代に、今の三日月町末広のあたりを中心とする中川の里に丸部具（まるべのそなう）という人がおった。この人がある所のある人が持っていた剣を買い取ったが、その後不幸が続いて家が亡（ほろ）んでしまった。それから何年もたって、またある人が丸部具の家の跡を畑にしようと掘り返していてこの剣を見つけた。柄は腐ってしまっていたが、刃はピカピカに輝いてまるで鏡のようだったという。さっそく鍛冶屋（かじや）を呼んで剣をつくり変えようと焼かせたところ、剣は蛇のようにぐにゃぐにゃと伸び縮みし、鍛冶屋は驚いて帰ってしまった。これは妖剣（ようけん）だと思い、朝廷に献上してしまった。その後天武天皇の時代（６８４）になって、この剣はまたこの中川の里に送り返されたという。その後はどうなったかはわからない。



西播磨　佐用町周辺の製鐵遺跡（赤印）分布　参考図

林崎ひまわり畑から見る東徳久　天一神社　写真中央から左へ千種川が流れ下る　2012. 7. 18.

何度も出かけたことがある地であるが、天一神社にはいったことがありませんが、林崎ひまわり畑のすぐ北東側　千種川の横にある里山の上のようだ。是非　どんなところか　眺めにゆこう。

ひまわり畑の丘から北側千種川が流れ下る方向をながめると、　ひまわり畑の後ろ田園地帯の奥　千種川に沿って東徳久の集落が広がり、その東岸にまで張り出した枝尾根が見え、その後ろに美しい形の山が見える。この丘の上が天一神社の位置。　また　この美しい山の麓何度も行った殿崎のカタクリ群生地がある。　どうも　最近の地図にはこの天一神社名が記載されておらず、気がつかなかったが、このひまわり畑とは　ほんの目と鼻の先である。

原付を川沿いに北へ走らすと次の橋周辺がもう東徳久で、橋の袂に「天一神社参道」の標識。

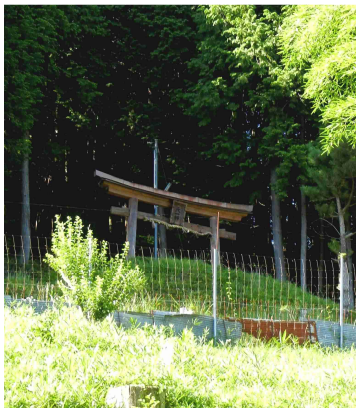
今まで　何で気づかなかったのか・・・・と。

千種川沿い県道 53 号　東徳久の橋の袂より　天一神社の案内標識

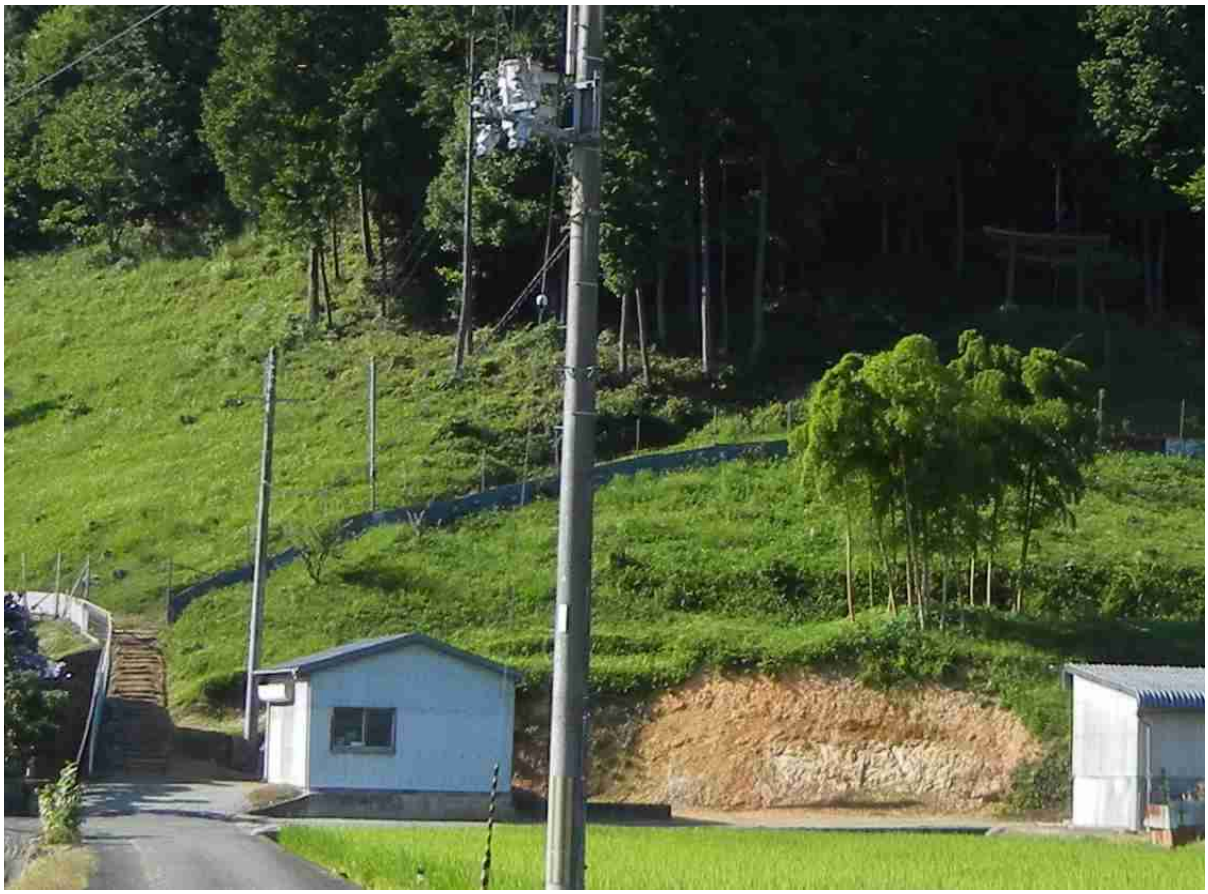
橋からまっすぐ山の方に向かう田園の中の一本道を通り抜けると丘で左に分岐する東徳久営農組合の作業場前に出る。
ここにも左分岐への小さな天一神社の案内標識が立っていて、この丘を回り込むと左側に先に見た千種川の岸まで張り出している枝尾根が眺められ、丘との間に整備された畑が段々に並ぶなだらかな傾斜地が奥へとづいている。この傾斜地の山際に人家がポツリポツリと眺められ、ここが東徳久　間村の集落と知れる。
の傾斜地を奥へと続く一本道の左手の枝尾根の一角に樹木がない草地の場所があり、そのそばに数軒家が見え、そこへの別れ道が見える
この山腹の草地の一番上の部分に目を凝らすと木の小さな鳥居が見え、これが天一神社の鳥居でした。

千種川から延びる枝尾根の山際　間村の集落への分岐と園山の中腹に天一神社の木の鳥居

間村の集落から登ってきた道を振り返ると随分下に林崎周辺が眺められた
振り返ると随分下に林崎のひまわり畑や千種川が見え、意識していませんでしたが、随分登ってきたようだ。
また、この位置が千種川の川筋が見晴らせる絶好の位置にあることがわかる。
この分岐のところにも天一神社参道の案内標識がありましたが、夏の暑い日差しに全く人影が見えず。
鳥居は見えるのですが、神社の社殿などは全く見えず。背後の森の中に隠れている。



間村の集落の里山の森の中にある天一神社　鳥居が見える　　2012. 7. 18.



天一神社へと続く参道　参道は猪の囲いとネットで完全に封鎖されていました　　2012. 7. 18.

猪囲いがあって、道が閉じられていて　勝手に外して行くのもいやで　今回は奥へは行けず

参道は猪の囲いで封鎖されていて　たずねる集落の人にも出会えずで、奥の様子も全く予備知識がなしで来ましたので、今回はここで引き返し、出直すことにしました。次回　佐用に行ったときには是非　この山の中に入れてもらおうと。

なお　帰ってインターネットを見るとこの猪囲いを外して鳥居をくぐってゆくと森の中に
鞘屋の中に納まった本殿など社殿や境内の様子を示した写真がありました。

道の上に鳥居

参道途中に書道の神を祀る祠と天神降臨之岩

社殿

本殿の鞘屋

本殿

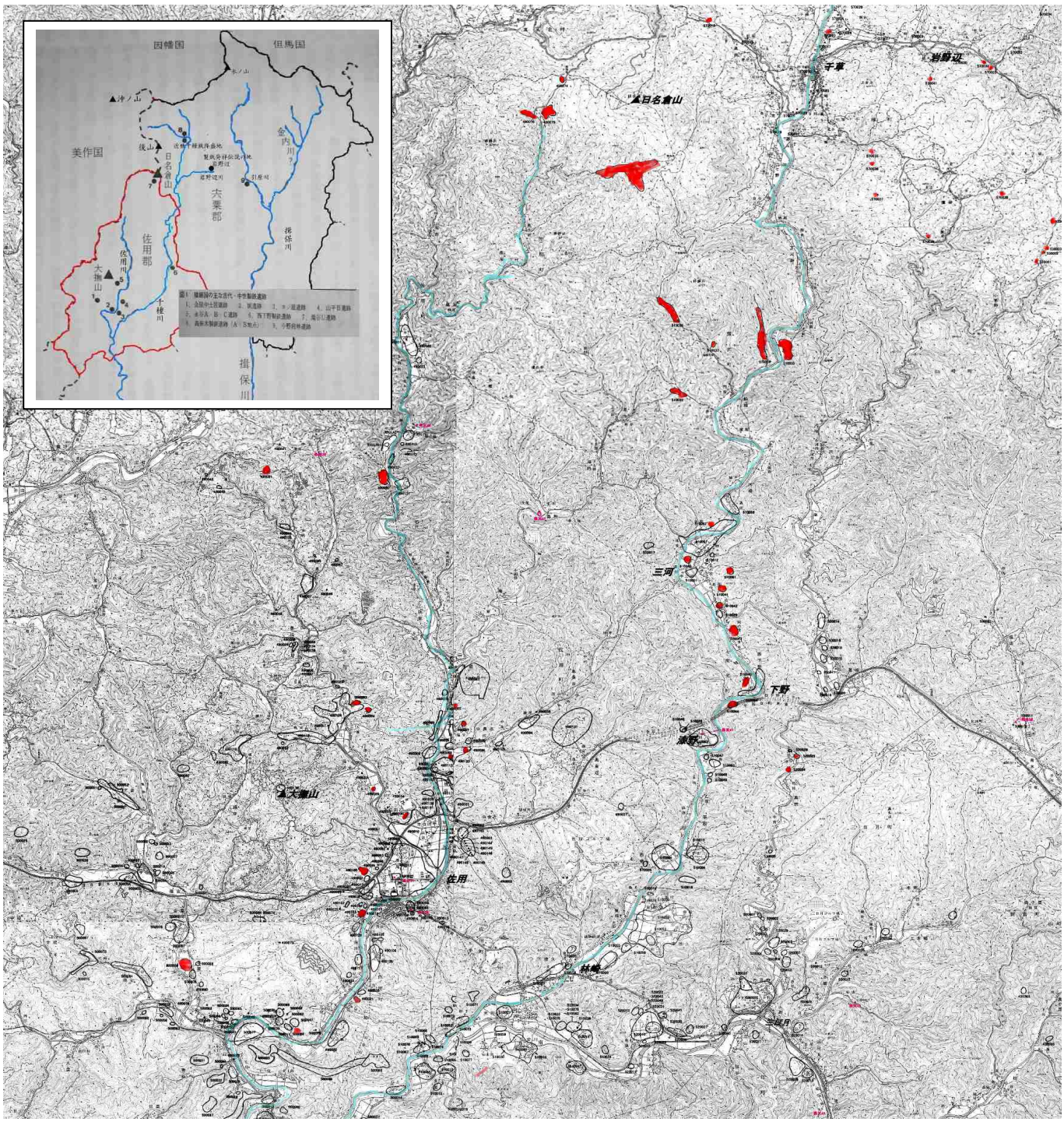
玄松子の記憶「天一神社」　http://www.genbu.net/data/harima/teniti_title.htm　より

東徳久　天一神社参道より　南西　千種川が流れ下る林崎ひまわり畑を眺める　2012.7.18.

天一神社のある東徳久　間村の集落　　千種川の川筋からも眺められる特徴ある美しい山の形が　この地を選択したのかも

【参考】和鉄の道

播磨国風土記和鉄の道【1】　古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk　　西播磨　佐用町　大撫山製鉄遺跡を訪ねて

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron01.pdf

【参考 2】　西播磨　佐用・千種　主要製鉄遺跡分布図